

令和6年度第9回
モニターアンケート結果報告書
選挙に係る啓発活動について

板橋区政策経営部広聴広報課

— 目 次 —

ページ

アンケート概要		1
あなたご自身のことについて		
問1	あなたの年齢を教えてください。	2
問2	あなたのお住まいの地域（町丁目まで）を教えてください。	2
選挙について		
問3	あなたは、選挙に行っていますか。	3
問3-1	（問3で「毎回行っている、ほとんど行っている、ときどき行っている」とお答えの方にお伺いします） あなたが投票に行く理由は何ですか。（複数回答可）	3～4
問3-2	問3-2（問3で「ほとんど行かない、行ったことがない」とお答えの方にお伺いします） あなたが投票に行かない理由は何ですか。（複数回答可）	4
問4	あなたは、投票日当日に投票に行けない人のための「期日前投票制度」をご存じですか。	5
問5	あなたは、出張や旅行などで他の市区町村に滞在している場合や病気やけがで病院に入院している場合でも投票できる「不在者投票制度」をご存じですか。	5
問6	選挙の際に、区の広報紙やホームページで知りたい情報は何か。（複数回答可）	6
問7	選挙の投票率が低いことについて、その原因として考えられることは何だと思いませんか。（複数回答可）	7
問8	選挙への関心を高め、投票率の向上を図るためにはどのようにすればよいと思いませんか。（複数回答可）	8～9
問9	全体の投票率を比べると、若年層の投票率は低い傾向にあります。今後、若年層の政治や選挙に関する意識を高めるためにはどのようにしたらよいと思いませんか。（複数回答可）。	9～10
問10	子どもたちが将来の有権者になったときの投票行動に結びつけるために、今行うべき効果的な方法は何だと思いませんか。ご意見をお聞かせください。（自由記入）	11～

※ n(number of cases)は、その設問に対する回答者の総数を示しています。

質問によっては複数の回答を得たものがあります。

また、質問によっては、回答がなかった、もしくは、択一選択の質問に複数の回答があったため、総数について整合がとれていない部分があります。

1 アンケート概要

選挙に係る啓発活動について

2 調査目的

先般行われました、第50回衆議院議員選挙・最高裁判所裁判官国民審査におきまして、ご理解とご協力をいただき、心よりお礼申し上げます。

今回の総選挙におきましては、国全体の投票率が戦後3番目に低い水準となっており、板橋区におきましても同様の結果となっております。さらに、10代・20代の若年層の投票率はさらに低い状況が続いているところです。

選挙管理委員会では、選挙時には広報紙や区ホームページでの周知、街頭啓発活動などの事業を行っておりますが、今後行う啓発活動への参考とするため、アンケート調査を実施します。

3 調査対象

- | | |
|------------------|------|
| (1) いたばし・タウンモニター | 50名 |
| (2) いたばし・eモニター | 188名 |

4 調査方法

- | | |
|------------------|----------------|
| (1) いたばし・タウンモニター | 郵送またはインターネット回答 |
| (2) いたばし・eモニター | インターネット回答 |

5 調査期間

令和6年12月23日（月）から令和7年1月14日（火）まで

6 アンケート作成部署

選挙管理委員会事務局

7 回答結果（回答率）

	回答数	回答率
タウンモニター	34人	68.0%
eモニター	77人	41.0%
計	111人	46.6%

8 その他

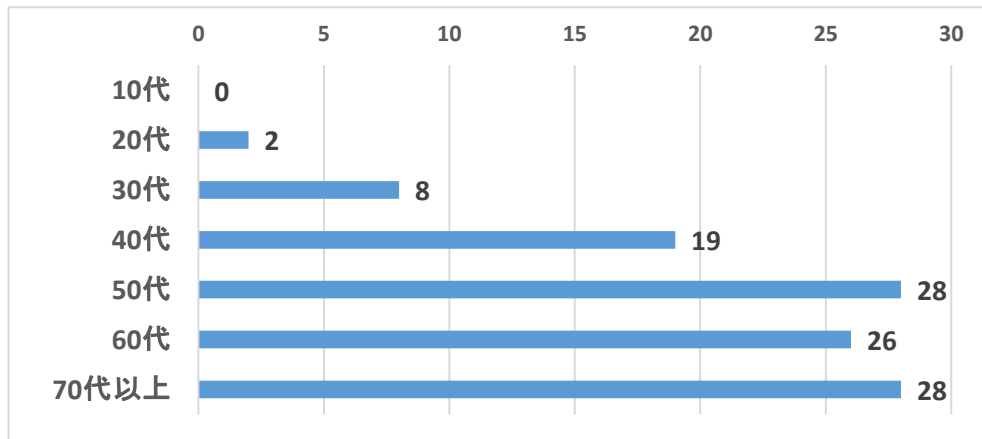
紙面の関係上、要約・省略をしているものがあります。

また、ご意見・ご要望等で、アンケートに関連のない内容等については、割愛いたしました。

回答の比率（％）は、小数点第二位を四捨五入しています。したがって、数値の合計が100％にならない場合があります。

あなたご自身のことについて

問1 あなたの年齢を教えてください。



n=111

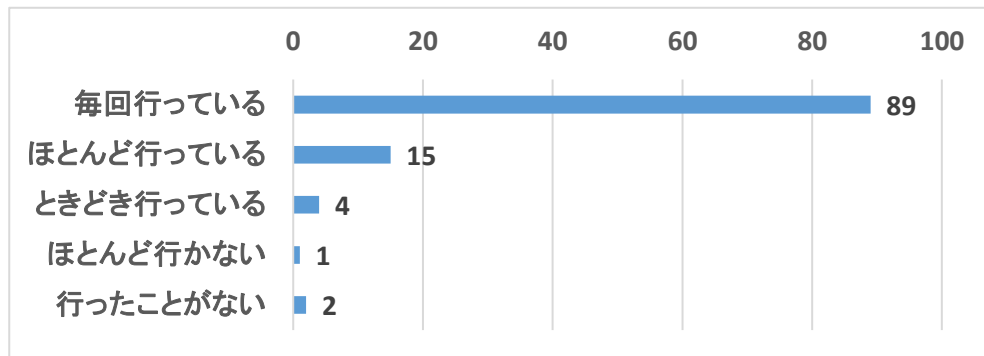
問2 あなたのお住まいの地域（町丁目まで）を教えてください。

相生町	1	大山西町	4	高島平三丁目	3	蓮沼町	3
赤塚一丁目	1	大山東町	2	高島平五丁目	1	蓮根二丁目	4
赤塚四丁目	1	加賀一丁目	1	高島平七丁目	1	蓮根三丁目	2
赤塚五丁目	1	加賀二丁目	2	高島平八丁目	2	東山町	1
赤塚六丁目	1	上板橋一丁目	1	高島平九丁目	1	富士見町	2
赤塚新町二丁目	1	上板橋二丁目	1	常盤台一丁目	4	双葉町	2
赤塚新町三丁目	2	小茂根一丁目	1	徳丸二丁目	1	舟渡一丁目	1
赤塚新町(丁目不明)	1	栄町	1	徳丸三丁目	1	本町	3
小豆沢一丁目	1	坂下二丁目	2	徳丸六丁目	1	前野町三丁目	1
小豆沢二丁目	1	坂下三丁目	1	仲宿	7	前野町六丁目	1
板橋一丁目	1	桜川二丁目	1	中台一丁目	1	前野町(丁目不明)	1
板橋二丁目	1	桜川三丁目	1	中台三丁目	1	南町	1
板橋(丁目不明)	1	清水町	1	中丸町	2	三園一丁目	2
稻荷台	1	志村一丁目	3	成増三丁目	1	南常盤台二丁目	2
大原町	2	志村二丁目	1	成増四丁目	1	向原一丁目	2
大谷口一丁目	1	志村(丁目不明)	1	西台二丁目	1	向原二丁目	1
大谷口上町	1	高島平一丁目	1	西台三丁目	1	弥生町	1
大山金井町	1	高島平二丁目	2	西台四丁目	1	若木一丁目	1
大山町	2						

n=111

選挙について

問3 あなたは、選挙に行っていますか。

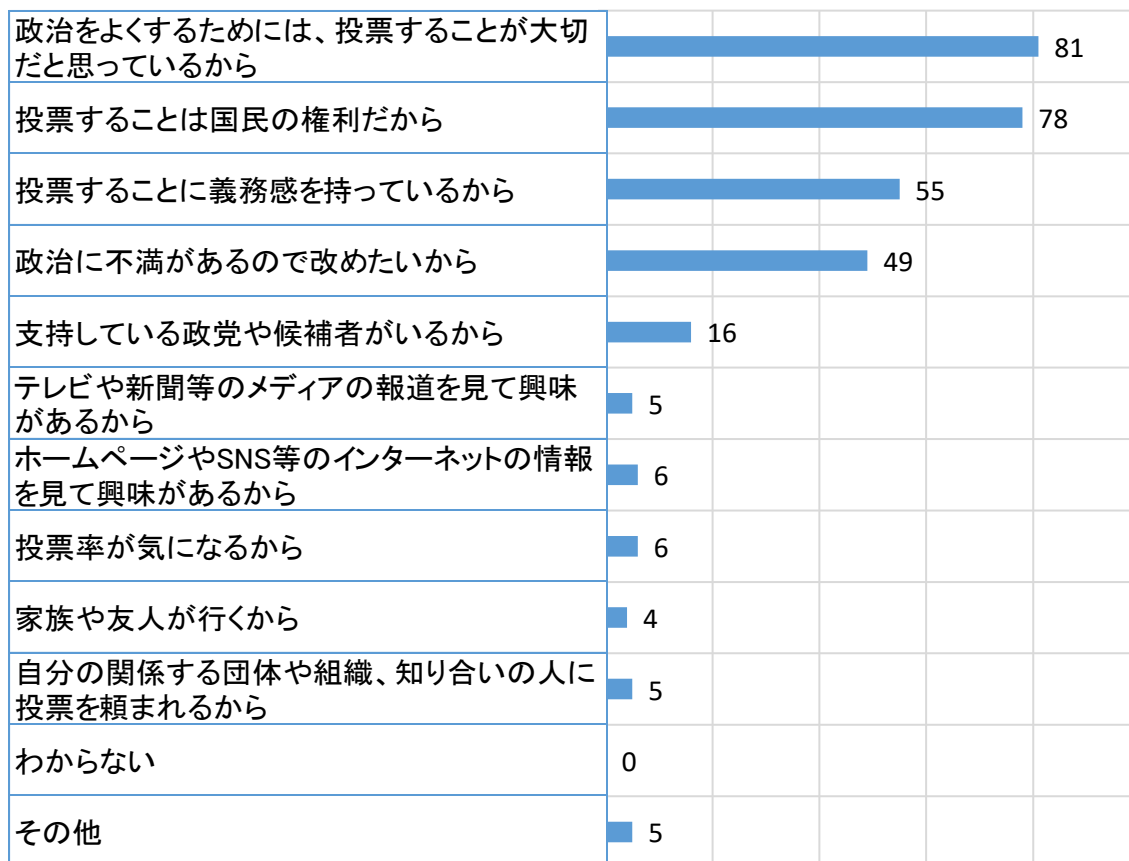


n=111

「毎回行っている」と回答した人が89人（80.2%）で最も多かった。

（問3で「毎回行っている、ほとんど行っている、ときどき行っている」とお答えの方にお伺いします）

問3-1 あなたが投票に行く理由は何ですか。（複数回答可）



n=108

「政治をよくするためには、投票することが大切だと思っているから」と回答した人が81人（75.0%）で最も多かった。

（その他の回答 は次のページ）

《問3-1「あなたが投票に行く理由は何ですか。」その他の回答》

- 国民の責任として政治参加している。
- 権利や義務の前に、色々問題はあるが、今の民主主義や自由と平等を守るには選挙は非常に重要な、意思表示であり、唯一の方法です。
- 民主主義を守るためには選挙と投票が大事だから。
- 少しでも投票率を上げることに寄与したいから。政治をまだ諦めたくないから。
- より良い国にする為には、より良い政治家を選ぶ事が大切。

（問3で「ほとんど行かない、行ったことがない」とお答えの方にお伺いします）

問3-2 あなたが投票に行かない理由は何ですか。（複数回答可）

仕事や用事があるから	0		
病気などの身体の都合で行けないから	0		
投票所の場所がわからないから	0		
投票したい政党や候補者がいないから			1
政治や選挙に関心がないから	0		
投票しても政治や暮らしがよくなるわけではないから			1
わからない	0		
その他			1

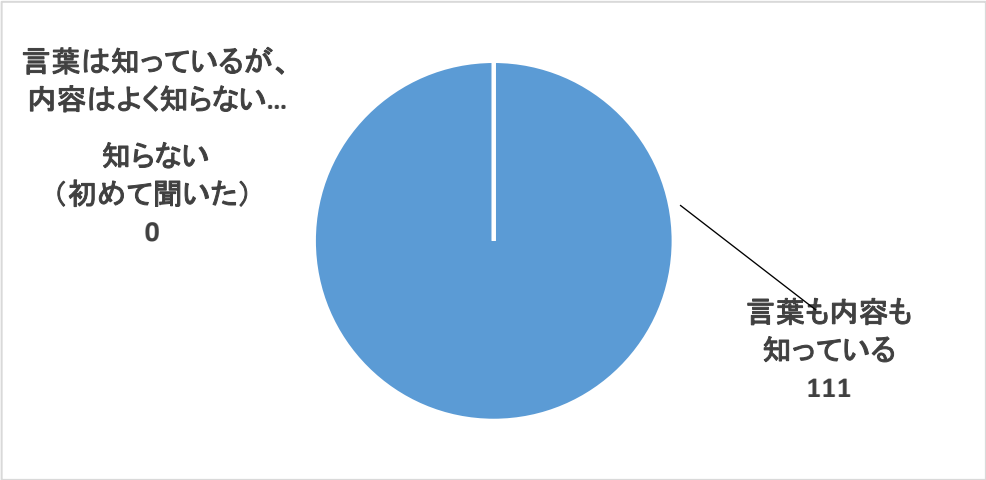
n=3

「投票したい政党や候補者がいないから」「投票しても政治や暮らしがよくなるわけではないから」「その他」と回答した人がそれぞれ1人だった。

《その他の回答》

- 仕事の都合もありますが、正直関心も文句もありません。

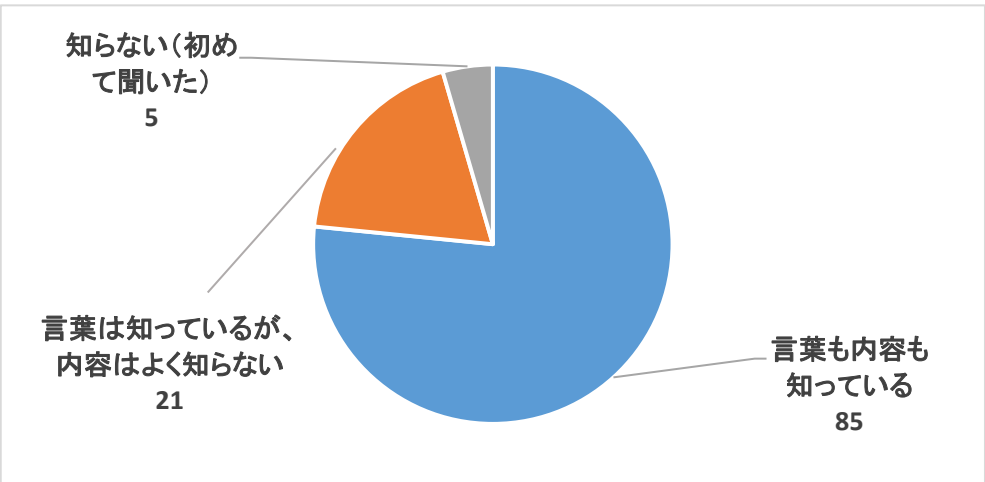
問4 あなたは、投票日当日に投票に行けない人のための「期日前投票制度」をご存じですか。



n=111

「言葉も内容も知っている」と、全員が回答した。

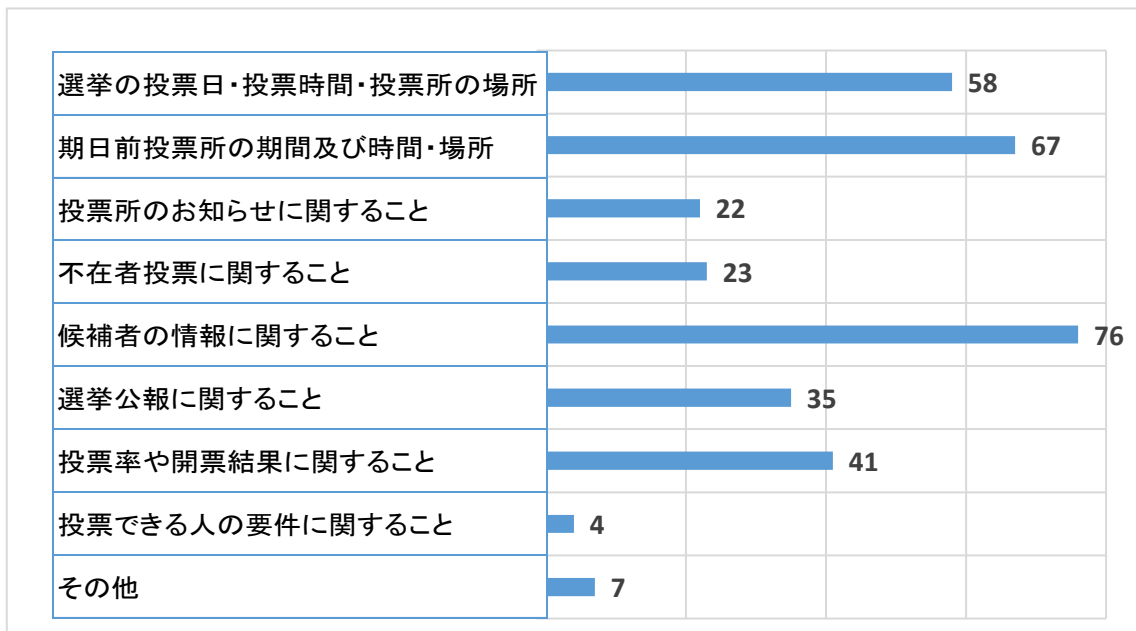
問5 あなたは、出張や旅行などで他の市区町村に滞在している場合や病気やけがで病院に入院している場合でも投票できる「不在者投票制度」をご存じですか。



n=111

「言葉も内容も知っている」と回答した人が85人（76.6%）で最も多かった。

問6 選挙の際に、区の広報紙やホームページで知りたい情報は何ですか。（複数回答可）



n=110

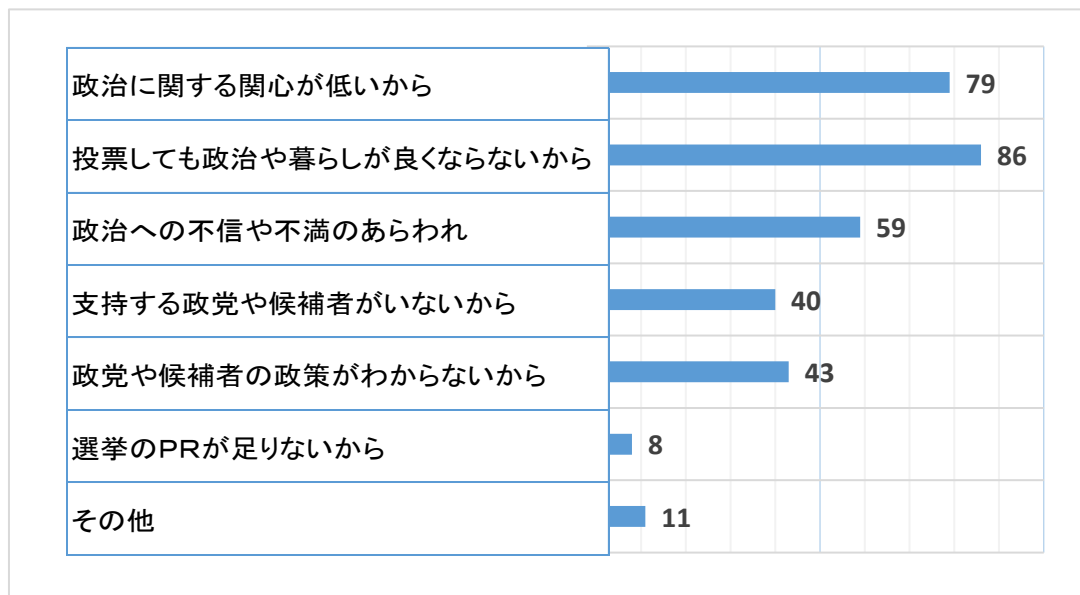
未回答=1

「候補者の情報に関すること」と回答した人が76人（69.1%）で最も多かった。

《その他の回答》

- ・期日前投票所のリアルタイム混雑状況（2人）
- ・先日の衆議院議員選挙では、日程がタイトだった事で投票用紙が届くのが遅く、心配で、電話して聞いてしまった。なくても投票できるようなので、それも情報としてほしい。
- ・券を持たずに投票へ行く時の持参品を詳しく。
- ・選挙公報をPDFダウンロードせずにブラウザで見られるようにしてほしい（端末容量に空きがない）。
- ・特にない。

問7 選挙の投票率が低いことについて、その原因として考えられることは何だと思いますか。（複数回答可）



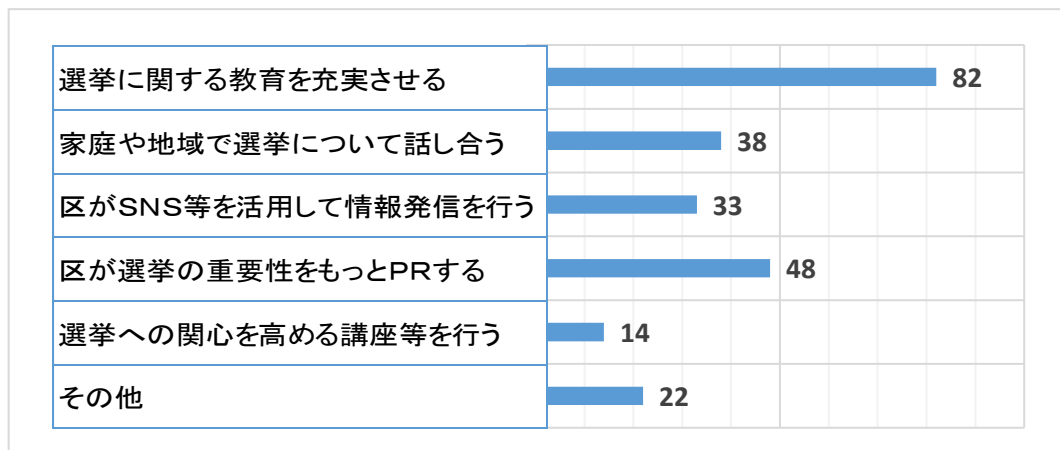
n=111

「投票しても政治や暮らしが良くならないから」と回答した人が86人（77.5%）で最も多かった。

《その他の回答》

- ・選挙権を無駄にしないよう、ルール改正を！無断棄権をしたら（連続）三回目から通達しないとか、大蛇をふるうことも必要ではないかと。物議をかもすかもしれませんが。
- ・義務化して、投票に行かない方(正当な理由のない方)には、税金をかける、又は、投票回数が多い方は、税金面で優遇する。国や都道府県又は市区町村から買物券などを支給する。
- ・投票券が来るのが遅かったから。
- ・住民票があるところにしか用紙が届かないから。しかも届くのが投票日の直前であるから。
- ・選挙に関する教育をしていないから。
- ・そもそも政治の仕組みについて理解していない人が多いので、政治を知らないから選挙制度にも興味が湧かず、投票行為にも興味が無いという流れだと思う。
- ・仕事等が忙しく、期日前投票であっても時間内に投票所に行くことが難しいから。期日前投票所であっても、投票所が遠く行くのが大変だから。
- ・私には、最近の人々、世情、人間関係全てが、人間そのもの、弱くて、脆くて、自己中で、今さえ良ければ主義に殆ど蝕まれている。私にもその点は否めない。一言でいえば、50歳以下の人たちは、更に30歳以下の人たちは輪をかけて、自由と、権利の意識が旺盛です。加えて、戦後処理、ドイツの敗戦国、ロシア、中国、北朝鮮の様な戦勝国が戦争に対する、明確な国家像、意識を国民に示さないまま、今日まで、何も無かったように過ごして来た。皆が間違っていたとも言えるし、正しかったとも、これが日本人と言えはいえると思う。結論、無投票も一つの意思表示、つまり、考えてはいるが、行動はしない。いざと言う時には、めっちゃくちゃ行動する。実は本当に怖い民族かも知れない。これらは、先の選挙の結果です。本当は与党を支持したいが、余りにも自分勝手だ。不正直だ。と映ったのだと思う。私も、肝に銘じて置きたい。
- ・立法、行政への不信・不満
- ・国民の民度が低下しているから。
- ・悪目立ちする候補者が乱立していること。

問8 選挙への関心を高め、投票率の向上を図るためにはどのようにすればよいと思いますか。（複数回答可）



n=111

「選挙に関する教育を充実させる」と回答した人が82人（73.9%）で最も多かった。

《その他の回答》

- ・選挙権を無駄にしないよう、ルール改正を！無断棄権をしたら（連続）三回目から通達しないとか、大鈍をふるうことも必要ではないかと。物議をかもすかもしれませんが。
- ・投票拒否した人には税金を上げる。
- ・強制しないと投票に行かない。
- ・ネット投票の導入、罰則の適用
- ・余計なことはしなくてもネットで投票できるようにするだけで良い。
- ・コンビニでも投票出来るようにする。
- ・足の悪い高齢者は投票所に行く事を諦めている。老人ホームを回って期日前投票。駅やイオンに期日前投票所を設置（板橋区以外のイオンではやっています）。
- ・特に若い人が問題なのかもしれません。ですが、私ども、中年以上でも、はっきり言って、慌ただしい生活の中で投票所へ来ても、誰がどうなのか分からず苦慮しながら投票している実情に見れば、来場が主体的な行動として実現するためにいろいろ工夫する必要がありそうに思います。たとえば、インセンティブを与えとか、それは行き過ぎとしても、動機付けがあると良いでしょう。
- ・選挙に行ったことによって、どのような成果や効果があったのか、その具体的な事例をもっと公開して、投票することの個人としての価値を訴求すること。
- ・名称がはっきりしないが、投票所で配布している「投票済証明書」の活用、配布の徹底。
- ・選挙割を店の善意だけで済まさないで補助などして参加店を増やし投票することに特典があればいいのに。
- ・選挙に行けば、何かスタンプが貯められるとか、いたPayのポイントがもらえとか、何かメリットがない限り、若者は行かないような気がする。
- ・政治・経済に関する教育を充実させなければ、選挙への関心は高まらないと思う。選挙からはじめるのではなく、生活・経済それから政治・選挙でしょう。大事なものは足元にある。
- ・小学校からの教育
- ・義務教育の中で、国を良くする政治を行うためには、良い政治家を選ぶ事が大切だと言う事を繰り返し教え込み、民主主義の入り口であることを理解して貰い、日本人の民主主義の考え方の成熟度を上げる。
- ・政治への関心が高まれば、選挙への関心も高まると思います。身近な生活の変化と政治が影響している具体例を知ることや、想像することができるようになる教育、啓蒙が必要だと思います。

《問8（選挙への関心を高め、投票率の向上を図るためにはどのようにすればよいと思いますか。）その他の回答つづき》

・「選挙ポスターを広告に利用する」、「選挙に立候補するも自身の当選は目指さず他の候補者の応援に政見放送の割り当て時間を利用する」、「違う政党なのに同じ略名を使用する」、「何でもありのSNSでの選挙活動」等、法やモラルの問題を整理し、論点を分かりやすくしたうえで政治の仕組みから教育をしたほうが良いと思う。

・公僕として、日夜努力、苦勞、忍耐と寛容の見本みたいに活動している人々、公務員の復権、権利や自己主張が必要です。相手によっては、もっともっと強い態度や行動が必要です。遠慮や我慢も行き過ぎると、別の問題に発展します。批判や攻撃された時また考えましょう。それで国民市民は十分納得しますよ。考えてみましょう。

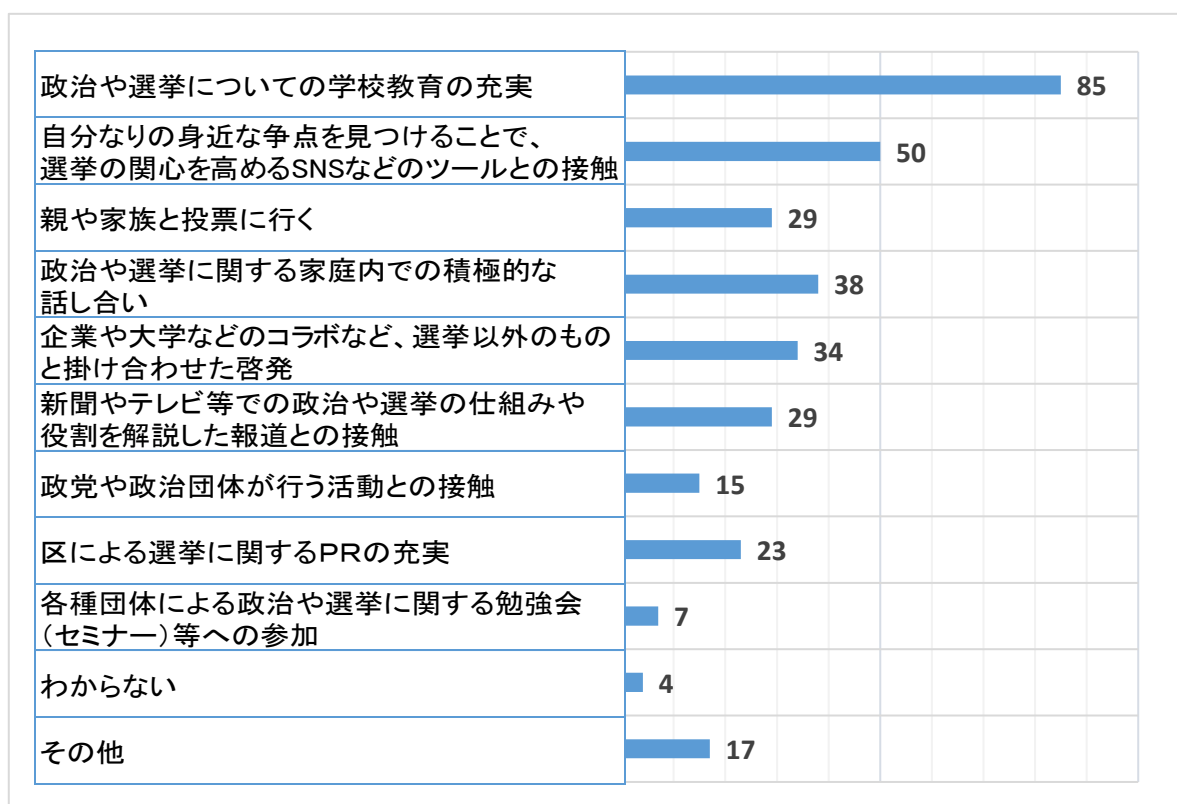
・魅力的な候補者がいないから。

・投票したい人がいないという根本的な問題がある。政治家という、もはや自分の地位や財産の為に動いている人が多い。もっと人物そのものがわかる情報がある。聞いたことのないカタカナ語で煙に巻くやり方ではなく、誰にでもわかる言葉づかいで話す人でないとそもそも信頼できない。

・テレビの選挙放送に出ている人が、ふざけたりおちょくったものが多いので、子どもも若い人も選挙がいい加減なものに見えてしまう。

・候補者の政策、考えをきちんと発信する。名前連呼では投票できない。

問9 全体の投票率を比べると、若年層の投票率は低い傾向にあります。今後、若年層の政治や選挙に関する意識を高めるためにはどのようにしたらよいと思いますか。（複数回答可）。



n=111

「政治や選挙についての学校教育の充実」と回答した人が85人（76.6%）で最も多かった。

（その他の回答 は次のページ）

《問9（今後、若年層の政治や選挙に関する意識を高めるためにはどのようにしたらよいと思いますか。）その他の回答》

- ・そういう場当たりの対策ではなく仕組みを変えるべき。例えばネットで投票できるようにする。また大学などで実家を離れ住民票がなくても投票がしやすくなるようにする(郵便投票など)。投票した人が当選しやすくなるように選挙制度を変える(中選挙区制など)。当選してほしくない人を落選しやすくなるなど。

- ・入院中に病院で投票したことがあるが、学校にも投票日を作ればいい。

- ・期日前投票や当日の投票の立会人として、多くの若者を採用する。また開票にも携われるようにする。

- ・ネット投票の導入、罰則の適用

- ・罰金制度を設ける。

- ・強制しないと投票に行かない。

- ・小学校から政治のことを学び（中立の立場で）、どんどん若い人が真正面に立候補する。歳をとった人も、ガンコさを出さずに魅力的に見えるように生活をして、謙虚で正しい態度を見せる。

- ・民主主義国家の選挙に対する教育の徹底しかないと思います。

- ・小学生から、授業、主要科目に追加。点数、評価をする。抽象的なので、答え方、考え方に重点を置く。

- ・既存の社会に存する組織・団体を介しての啓発というのが、手軽である反面、おかしい色付きに化けるおそれを感じます。大学だって、授業料爆増を推進する政治家を生むかもしれません。なかなか、フラットに中道を行くというのが、人間社会では難しい面がありそうです。

- ・前例がないと思うけど、学校教育の中で、選挙をもっと小さいころから身近な存在にしていこう。例えば、小学校（高学年）の授業や学活の中で、選挙立候補・投票などの真似事ゲームのような事をしてみたり。選挙に行くことが、自分の生活にかかわる事を学ぶと良いと思います。

- ・SNSでの積極的なPRが大事（選挙の争点ではなく、実施のPR）。

- ・選挙に行ったことによって、どのような成果や効果があったのか、その具体的な事例をもっと公開して、投票することの個人としての価値を訴求すること。

- ・行きたい人が行けばいいと思います。行きさえすればいいというものではないので、若い人も必要だと思えるようにすればいいのかなと思います。

- ・区や企業が関わるとイデオロギー面での弊害が出そうな気がします。あえて項目を選ばなかったのですが、企業ではなく大学とのコラボは可能性がある気がします。大学生が主体的に選挙とその制度問題や政策を考えるワークショップを地域住民と開く、というような。家政・淑徳の児童福祉、淑徳・大東の環境創成、日大・帝京の医療高齢者福祉、東洋のスポーツ科学など、社会課題の解決に大学との連携には期待します。名前は変わってしまったけれど、大東文化大学の環境創造学部の取り組みはとても面白かったです。商店街に実際に場を作って行動する試みにはわくわくしたものです。今、高島平と取り組んでいるものもぜひ実のあるものへ辿り着けることを願っています。区としては各大学（専門学校も含めて）連携事業の場作り、経済的なサポートや活動できる場の確保など補助していただければありがたいと思っています。

- ・学校が介入すると思想が誘導されるからだめ。平日になにかを開催しても結局年寄りしか集まらない。候補者が年寄りに耳障りのいいことしか言わないから現役がついてこない。投票にうま味がないと若者は動かない。

- ・そもそも学校やマスコミが信頼できないということが増えたのが良くないと思う。

問10 子どもたちが将来の有権者になったときの投票行動に結びつけるために、今行すべき効果的な方法は何だと思いますか。ご意見をお聞かせください。（自由記入）

教育の充実について

政治や選挙に関する（学校）教育の充実（12人）
小学校や中学校で、選挙の前と後に選挙に関する授業を行う。外国における取組みを紹介する。
学校教育の一環として全ての学校で授業として取り入れるべき。
初等教育から選挙の意義を正しく教えること。昨今の選挙事情をメディアが面白おかしく報道することにより、選挙の重みを感じなくなっていると思う。立候補者も有権者も、重みを感じない時代になってしまっている。すべて子どもの時からの教育に起因している。
学校教育においても低学年からこれまでの選挙制度の成り立ちや投票に関心を持たなければならないこと、世界情勢を踏まえながら、問題意識を持つこと、一人一人の投票がいかに大切な、様々な学ぶ機会を推進していくことが重要だと考えます。
各政党の政策等を学ぶ機会をつくる。
学校でもっと(30年前はそれほど授業で学んだように思えない)低学年のうちから選挙とは何かを学べるようにしたらいいと思う。土曜授業の時や選挙近くに必ずやるなど。低学年の子も「このポスターは何」とか「車で喋っている人は誰」とか「ママは誰に投票するの」とか子どもながらに関心があるように思うから。
最近政治を真面目に考えない大人が増えています。やはり家庭だけでは難しいので、学校で政治・正しい選挙のあり方を教えていただけたらと思います。SNSのあり方も危ない気がします。自分でしっかり見る目・考える頭を育ててもらいたいと思います。議会の見学とか、議員へのインタビューとかもいいかもしれません。
選挙に関する教育。特に、SNSなどのネット情報の解釈や考え方などの接し方を教え、盲目的に信じることのしないよう教育する必要があると思います。
改善してほしいことを訴える機会を与えること。 政治が身近なことだとわかるような学習をすること。
政治および政治家に興味を持つようにするための教育をする。特別な方ではなく誰でも出来るように、仕組みなど考えるようにキッカケづくりをする。
自分の生活に即した政治経済の教育と話し合いをする環境。学校で政治の話をしてはいけないなんてナンセンスだ。
政治と暮らしの関連度合い、戦争などの世界情勢と日本の立ち位置などの教育施策の充実
どうして、自分の1票が大切なのか。 政治で何が行われてるのか。 自分には関係ないと思ってる若者が多い。 身近な問題が政治によって解決する例などあげて、教育すべき。 生活と政治は密接だということが、わかるように。
小学校時から政治を教育する。政治で世の中が変わることを教育する。
自分が投じる1票が生活を変える実感を得られるように啓発していくこと。
投票者数が少なく、投票投票率も低い世代には政治家が見向きもしないため、シルバー民主主義となり若年層（親世代）向けの政策が長らく実現してこなかったこと等、一人一人の投票行動が生活に影響することを実例を交えて解説する必要がある。
選挙の結果から、どう自分に戻ってくるのか、などの教育
選挙に行かないと今の生活は良くなれないと伝える。 自分の生活を良くする為に自分が出来る事の1つに自分の1票がある事を教え込む。

義務教育の期間から選挙権の大切さ、投票の大切さを教える。 世界には1票の投票を実現するために命を懸けて、国を良くするために行動をしている人間が多くいる事実を知るべき。
教育の場で、政治や選挙について具体的に学ぶことが重要と考えます。教科書に書かれていることは基本的なことにすぎず、それを現実のニュースなどと照らし合わせて、実体験で学ぶことが興味関心につながります。また、情報リテラシーについても若年層から学び、正しい情報を見極める力を身につける必要があります。世の中は玉石混淆の情報であふれかえっていますので、情報の真偽を判断し、正しい情報を発信・受信できる人間になるための教育が必要です。
子どもの頃から、興味が持てるように純粋な時に、緩やかに意識付けしていけたらいいか？
地域に根付いた人をアピールさせてその地域でどのような貢献、未来を作ってくれる人達を選ぶ事が大事だと教えていく。
模擬投票等を、授業に取り入れて体験する。（4人）
民主主義国家の議会とは…などの意味合いでの議会疑似体験を通じてその根幹となる選挙の大切さを学んでもらう。
学校の活動や委員の選定などで、実際に生徒の投票で決定するプロセスを実施し、その結果、何がどのように変わるのかを体験すること。

大人（親世代・家庭内）の対応について

学校・家庭で、政治や選挙などの話をする。（4人） ※活躍した政治家の話話を話題にする。 ※身近な生活を通して自分の考えを話す機会をつくる。 など
身近な親が見本を示し、政治の話も堅苦しくなく話す家族の会話。
社会の最小単位である「家庭」での対話が一番大切だと思っています。 我が家では普段からニュース等の話題について子どもたちと会話をしています。 親として話をする際注意しているのは、単に出来事への不満を話すのではなく、なぜそうなったのか・そうなったと思うのか、またどうしたらいいのか・変えられるのかを親子でディスカッションするように心がけています。 となく文句ばかり言う大人が多く、関心も行動も起こさない大人に子どもたちは疲弊していると思います。 子どもたちの前に、まずは大人一人ひとりが変わることが重要ではないでしょうか。
親が子供に政治の話をする。これに尽きると思います。私の父はよく選挙に誘ってくれました。道すがら今の政治の話、候補者の話を聞かされたものです。今思うとだいぶ偏っていたと思いますが（苦笑）。そう思えるのも当時、関心を育ててくれたからだと思います。 最近自分はめっきり投票日に投票に行かなくなっていました。ですが秋の選挙では反対に平日どうしても投票に行く時間が取れず、日曜日の朝中学生の息子と投票に行きました。その時にああそう言えばと前述の父との散歩を懐かしく思い出しました。 若い人が、若い人だけではないかもしれませんが、選挙に行かないのは無力感なのではと考えています。前の設問にも書きましたが「自分たちが社会を変えていける」そう学生時代に思うことはとても大切な体験になると思います。世の中は自分の手で作っていく、そう若い人たちに思ってもら。大人たちは若い人たちの活発な循環を産む場を作ってあげるそんな社会が作れたらいいですね。
家庭で親を通じて政治や社会問題について学ぶ。親が政治に関心をもち、投票に行く。大人が手本を見せることが重要。親世代に対するアプローチをしなければならない。日常的に政治に関心を持てるよう、気軽に集まって社会問題について話し合ったりする場があるといいと思う。場の提供を区がすることは可能ではないか。日ごろの問題意識があつてこそ投票行動につながる。選挙の時だけ情報を集めて投票しようとする、質の悪い情報やプロパガンダに踊らされる。

その時期注目度が高く、子どもや親御さんに直接関わる政策について討論をする。これが効果的だと思います。その話しをご家庭に持ち帰り話題にして貰えたら、子育て世代の意識も多少は改善されるのではないかなと思います。 そもそも学生生活の中でも学級委員、生徒会など擬似的な選挙はあります。しかし学級委員は単なる連絡係り。生徒会も特別に記憶に残る政策や活動はなく、外から見ていた私には正直何をしているのか分かりませんでしたし、興味も覚えませんでした。今思えば生徒会にももう少し予算と権限を与え、その世代ならではの試みがあれば違ったのかもしれません。
今、小学・中学・高校生の孫が数人いる。東京に住んでいる子が多いので、給食費無料・医療費無料・子ども手当・授業料無料など、私達70代が子育てしてる時とは違い、福祉が大変良くなっている。それは、与党・野党が、国民のために頑張っている仕事をしていただいたおかげと思いたい。若い親や老人、区の職員も、学校の先生方も、そういう仕組み・流れを口うるさく話し、人間の義務、日本人の一人として投票に参加して、結果が生活や暮らしに直接ふりかかってくることを考えられる教育・しつけが必要ですね。
（親が）子どもを連れて投票に行く。（4人）
親が選挙に行っていれば子どもも行くと思うので、まずは親世代の教育が必要だと思う。
とりあえず、親は投票に行く姿勢を見せる。無駄だと思わないように日頃から言う。
子どもが成長して選挙権を持ったら、国民として選挙に行く義務があることを知らせて家族揃って行く様にしたいです。
投票所に行かせる→投票結果を共に観る
親が投票に行く際に散歩のつもりで一緒に会場に行き、実際に投票するところを見て身近に感じるようにする。 投票した後の結果がこのように出るニュースなどを見ながら一緒に話し合う。
選挙は必ず子どもと行くようにしています。 選挙が何のためにあるのか、どう自分たちの生活と結びついているのか、子どもの頃に実感する機会がたくさんあるといいと思います。国政は少し距離がある感じがするかもしれませんが、区政は本当に生活と密着しているので、小中学校の課外授業などで区議会や区役所、教育委員会の見学や、区議会議員、区職員、教育委員会へ困りごとをぶつける機会など、もっと政治に触れる機会があると面白いかもしれません。
親世代が必ず投票に行く意識ができてれば子どももその意識で育つので、20～50代が投票に行けとしか。
①親は毎回投票に行く時に子どももつれていく。その時に選挙の大切さ、意義を伝える。 ②選挙が近づいたら近隣市町村の過去の投票率をPRする。
親が行く習慣があれば、子どもも行く。貰いたくなるような投票済証を作る（企業とコラボなど）。
子どものうちから親と一緒に投票所連れて行って投票が当たり前という感覚を身につける。
自分たちが選挙に行くことの意味を知って行動をすることで、選挙に行くことを習慣づけ、子どもにもその姿を見せていくことで選挙に行くことが普通だと思わせる。
子ども達には学校での教育を充実させる事が一番手っ取り早いとは思いますが、今、若い人達が選挙に行かない一番の原因は、大人ミドルシニア世代が選挙に行かない人が多いせいだと思います。仕事や育児など生活が忙しいミドルシニア世代の投票率をあげれば、おのずと家庭でも選挙や投票に行く会話が当たり、選挙の大切さを子供達にもわかってもらえるのではと考えています。ミドルシニア世代は、一票入れたところで何も変わらないという政治不信的な思いから、入れたい人も入れたい政党もないし忙しいし、と選挙に行かない人が多いと思います。そういうミドルシニア世代にこそ、どうして選挙が大切かの再教育と、選挙投票日以外でも投票方法がある事のよりPRが必要かもしれないと思います。

選挙・政治・社会のあり方について

日本は、他の国と比べて、自分の国に対する関心がないと思う。選挙・政治に関しても同様である。ところが、SNSの拡がりで見学運動が行われていることも、時代だと思ふ反面、恐ろしさを感じる。

投票をすることで、自分たちの生活に直接関わってくることをもっと知る事。また、候補者や政党が目指していることだけでなく、既成政党が実際にどういう政策や実績を上げているのかを知っていくことが大事だと思う。誰に入れたらいいのかわからないのだと思う。SNSなどは正しいものとデマが混在するし、それに流されない判断力をつけていくことが重要だと思う。

今の子の情報収集がSNSなどなのでSNSを使って身近に感じさせたり、ネット投票などさせてみる。

どこの場所でも投票できるシステム

投票所に行かなくても、ホームページなどにより、できる仕組み、何か簡単にできる仕組みがあると良い。

web投票を行う。

高校・大学で投票を可能にする。

都道府県（47）、区（23）、区内地区別投票率の、区広報による公表。

現在日本で不自由なく暮らしているのは当たり前ではない。なにもしないと日本がよくない方向に進んだときに急には何もできない、日頃から維持管理が必要と理解してもらう。

自由、平等、民主主義、相互主義、同様な価値観を持つ国々。例）英国、仏国、独国、伊国、カナダ、オーストラリア、その他類似の欧州国、インド、韓国、台湾など（アメリカ、特にトランプ次期大統領は不可？）、の小学、中学、高校生との話し合い、相互短期留学を毎月位で実施する。日本のレベルと大きく差があると感じる。それは一にも二にも、受験競争と塾通い、羨ましと甘やかし放題。日本人にはもはや、衣食住以外は外国の力に頼る以外、無理だと、私には感じる。私事ですが、三人の子に、六人の孫がいる。10歳位から18歳位まで受験勉強に明け暮れました。初めは、そろばん、水泳、剣道、サッカー、更に中学ごろ、英語のドリッピーの読み合わせ＝素人の私の低レベルでの特訓、五教科を必須科目とした。お陰でストレートで大学入学、非就職浪人で超氷河期を乗り切った。さぞ私は、非常に自慢して、十分満足しているか？否、不満と、自分の能力の無さに悲嘆している。つまりは、この位しても、日本人は、豊かで、世界観が乏しく、自分を見る力がかなり欠落している。孫に至っては、絶望感さえします。今の現実の社会、そのものを物語っている。日本、東京、板橋、地域で政治、経済、人生、社会、親兄弟、世界の現実について、とことん十分時間をかけて、話し合う事。つまり、選挙に関してこうしなさい、こうしなさい、今が総てで、他の事を考える必要が無い。本当に恐ろしい事です。世界の240位の国、地域で戦争、飢餓、自然災害、貧困、教育の不平等、経済格差などなど。ほとんど大半の国が、その現実の中で、毎日喘いでいる。一方、日本の様な平和で、豊かで、比較的少ない格差、貧富の差、不平等、何にも増して優れた医療と、保険と、年金、老後など。すべて先人のお陰で、作り上げて頂いた。この事に、もっともっと、私たちに知らせる事、世界の現実を知らせる事。そのためには、先頭を切って、公務の方々が、自信と誇りをもって、我々と対応するべし。今までの様な卑屈で、遠慮がちでは、解決は出来ない。無理が通れば道理がひっこむ。こうしなさい、先ずはやって見なさい。結果悪ければ、改めるのも信です。それとも今までのように、周りをを見て、忖度をするか？偉そうな私にも、自信や結論は見えない。でもお互い、変化、来年はもっと大きく、激しい変化があるでしょう。見守りましょう。

親と一緒に選挙に行くと何らかのご褒美がもらえるようにする。

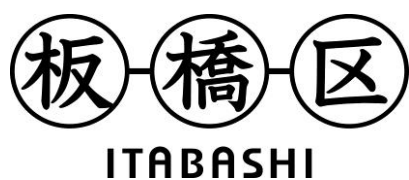
企業が採用する時、選挙に対する考え方を参考にする。

推薦入試の加点が+1 増える（半分冗談ですが有り得なくはないかと思いますし効果は強めに思います）

かなり本質的に言えば、子どもの社会性を育てる活動があると良いのです。民間団体で出来ると良いけれど、今の時代は民間の力を激減させてしまっているため、そういう意味では官民一体というのがベターかなと思います。

選挙に行くことによるインセンティブ

投票割(投票した人が割引を受けられる)など、実利があれば行く人は増えると思う。
参加するとポイントがたまる。献血カードみたいに、参加した回数で粗品がもらえとか。オンラインで投票ができる。 どうしても投票所で実施なら行ってみたいな、と思わせる。 若者はデジタルネイティブといわれるようにネットが一番身近なので、「スマホでぼちっと」なら、気軽にやってくれる気がすると思う。
投票権の年齢に達した時の、はじめて投票の後押し。
政治の信頼回復と政策実現結果の公表・アピールなどの積極的なPR
投票することの大切さ。全ては税金で賄われている。そのことへの理解が大切。 政治家は選挙のための目先の言葉を発するのではなく常に、日本の将来を見据えた政策を勉強し発信できるようにし若者が惹かれる行動をとってほしい。
政治家の実績を表にして出して、自分達の選んだ人がきちんと仕事をしていることを示す。
まともな政治家の出現
若くて期待できる候補者を増やす。
政党政策の一貫性と活動結果の見える化。現状は特に、政治活動の勢いを感じない。社会全体の経済状況そのものといった感じがする。景気の回復→家計の好転→政治への期待へと繋が り、結果、投票行動に結びつけるのではないかな。
掲げた政策を実行出来ない政党and政治家は、速やかに退場せざるを得ないような緊張感ある国会を有権者の力で作り上げること。
みなさんが日々感じられている、板橋区や区議会の理不尽や癒着や腐敗の内容について告発されてはいいかな。子どもたちがそれを知れば、みなさんをそこから救い出すために、区長選挙や区議会議員選挙の投票に行くでしょう。
日本古来からの伝統、文化、道徳などを再認識するような取り組み。職人の応援、日本の企業の復興、商店街の復活、農業漁業林業の復興、自然とのふれあい、勝ち負けなどの価値観の再考、など。
投票率50%、半数は投票に行かない、この状況が続いている。選挙権のあり方に問題があるのでは？
今回、事前投票所が開設されているのに投票所のお知らせが届いてなかった。郵便事情も変わってますが、開設前に投票所のお知らせは届くように郵送して欲しい。
強制しないと投票に行かない。投票や開票を面白くする。



いたばし・タウンモニター いたばし・eモニター 令和6年度 第9回アンケート結果報告書
選挙に係る啓発活動について

令和7年 2月発行

刊行物番号
R06-140